

平成21年度クオンティフェロンTB-2Gによる結核感染診断結果

横浜市の結核感染診断として、当所では平成19年11月からクオンティフェロンTB-2G検査(QFT検査)を行っています。従来はツベルクリン反応が用いられてきましたが、このQFT検査は、被験者の血液と結核菌特異蛋白ESAT-6、CFP-10が反応した際に放出されるインターフェロン γ (IFN- γ)をELISA法で測定する方法です。そのため、BCG接種や他の非結核性抗酸菌感染の影響を受けない特異度の高い検査法として、国の接触者健診のガイドラインでも最優先に推奨されています。

今年度の結果は、124事例493検体中、陽性39件(7.9%)、陰性435件(88.2%)、判定保留19件(3.9%)でした。また、QFT検査を開始してから昨年度までに6件あった判定不可は、今年度は各福祉保健センターの関係者の方々に協力していただいた結果0件でした。しかし、搬入時の温度不適、乳び¹⁾および採血量不足のため規定量での培養ができず参考値での報告となった検体もありました。

この検査は採血から検査までの温度管理や培養時間を厳密に行う必要があり、また、培養には組織培養用プレートを使用するなど、指定の器材を用いなければ測定値に影響がでる問題がありました。本年は購入元の試薬がTB-2GからTBゴールドに変更されることになり、本市でも5月中旬よりTBゴールドに切り替えることになりました。このTBゴールドは今までのTB-2Gに比べ、より感度が高く少量の採血量で済み、採血管に刺激抗原が添加されているため、その操作と培養プレートによる採血後の血液分離が不要になります。

今後は関係機関との情報交換や連絡を密にした結核感染診断の検査体制の構築が望まれます。

表 取扱い事例数²⁾と件数およびQFT検査結果

	福祉保健センター		A病院		計	
平成19年11月～平成21年3月	302事例	919件	18事例	29件	320事例	948件
陽性		72		1		73
陰性		797		28		825
判定保留		44		0		44
判定不可		6		0		6
平成21年4月～平成22年3月	118事例	481件	6事例	12件	124事例	493件
陽性		33		6		39
陰性		429		6		435
判定保留		19		0		19
判定不可		0		0		0
計	420事例	1400件	24事例	41件	444事例	1441件

1) 食事などで摂取した脂肪の影響により血清成分が白く濁った状態

2) 1事例：初発患者1人

【 細菌担当 】